2014年度新設

「臨床宗教師研修」の目的と意義

――東北大学大学院との連携協力による大学院教育プログラム――

龍谷大学大学院実践真宗学研究科　研修主任　鍋　島　直　樹

1．東北大学大学院における「臨床宗教師研修」創設とその目的

「臨床宗教師研修」は、2012年4月に東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座「臨床宗教師研修」に創設された画期的な大学院教育研究プログラムである。その創設に尽力した東北大学大学院の鈴木岩弓教授は、その目的について、次のように意味づけている。

「2012年４月より、東北大学大学院文学研究科に「実践宗教学寄附講座」が設置されました。本講座は、広い宗教性に基づきつつ超宗派・超宗教的な立場からの人々の「心のケア」を実践する宗教者、即ち「臨床宗教師」を養成するための教育システムを、理論と臨床を統合した形で明示することを目指しています。2011年３月に勃発した東日本大震災以後、日本中からさまざまな宗教者・宗教団体が積極的に被災者支援の活動を行い、注目されてきました。そうした中には、布教伝道を目的とせず、時には異なる宗教的背景をもつ宗教者同士が協同のもとで行う宗教的ケアの場が見られ、被災者に大きな勇気を与えてきました。こうした役割は、キリスト教国における災害チャプレンに相当するものですが、日本においてはこれまで、余り関心はもたれて来ませんでした。東日本大震災の被災者支援の活動現場から、こうした役割に対する意味が見直され、「臨床宗教師」養成を目指す本講座の設置へと結びついたことになります。……臨床宗教師研修では、宗教者として全存在をかけて人々の苦悩や悲嘆に向き合い、そこから感じ取られるケア対象者の宗教性を尊重し、公共空間で実践可能な「宗教的ケア」を学ぶことを目的としています。……宗教者が公共空間で活動することは、宗教者の活動の場を広げるということだけでなく、価値観・人生観・死生観についての葛藤に苦悩する人々に救いの手をさしのべることになります。」（鈴木岩弓「実践宗教学寄附講座の意義と役割」東北大学大学院文学研究科 2012年４月）

2．龍谷大学大学院における「臨床宗教師研修」開設の経緯

東北大学大学院文学研究科に設置された「臨床宗教師」の養成を目的とする「実践宗教学寄附講座」は、龍谷大学大学院実践真宗学研究科の理念と方向を同じくする。実践真宗学研究科では、この東北大学大学院の「臨床宗教師研修」という大学院教育に学び、東北大学大学院の実践宗教学寄附講座と協力して、龍谷大学大学院の実践真宗学研究科において「臨床宗教師研修」を実施できるように着手した。2013年３月以降、東北大学大学院に度々訪問し、鈴木岩弓教授、谷山洋三准教授、高橋原准教授から教示を受けた。実践真宗学研究科の深川宣暢教授は、2013年５月29日に京都において、龍谷大学大学院FD（Faculty Development）委員会を開催し、東北大学大学院の谷山洋三准教授による特別講義「臨床宗教師養成の取り組みの意義と目的」を聞いて、その意義をこう語っている。

「宗教研究の世界では、ここ数年来、宗教の社会貢献や公共性がテーマになってきていました。そこに東日本大震災が起こり、その際に人々が整然と行動し、互いに譲り合い、他者を思いやる姿を見て、特に注目されてきたのが、宗教の「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本)」という概念です。宗教がいかにしてソーシャル・キャピタルになるのか、また今後もそれを生み出し構築することができるのかが重要なテーマになっています。この状況の中で、国立大学である東北大学に「臨床宗教師」養成の講座が開設された意義は大きなものがあり、今後の実践真宗学研究科の教育・カリキュラムの充実のために大いに資するものであります。」（大学院FD研究会報告 2013年５月29日）

2013年７月に、実践真宗学研究科の龍溪章雄研究科長らと共に東北大学大学院を訪問し、実践宗教学寄附講座の鈴木岩弓教授、谷山洋三准教授、高橋原准教授と協議し、両大学院が「臨床宗教師研修」において連携しあうことを確認しあった。こうして同年７月10日に、2014年度から、東北大学大学院の連携協力によって、龍谷大学大学院で「臨床宗教師研修」を実施することが大学院実践真宗学研究科の教授会において承認された。

3．「臨床宗教師倫理綱領」の遵守

これを承けて、東北大学大学院における実践宗教学寄附講座運営委員会に参加し、「臨床宗教師倫理綱領」の重要性を学んだ。まず、2011年５月に、宮城県宗教法人連絡協議会等の支援を受けて「心の相談室」設立され、次に、2012年９月に、東北大学大学院文学研究科に「実践宗教学寄附講座」が開設された。その際、「心の相談室」が実践宗教学寄附講座の運営に協力

するために、この実践宗教学寄附講座委員会は設置された。その「臨床宗教師倫理綱領」（2012年９月20日制定）には、臨床宗教師がめざす姿勢、公共空間で守るべき事柄が記されている。その倫理項目のみを取り上げると、次の通りである。

〈ケア対象者の人間として、個人としての尊厳を尊重する〉
〈人種、性、年齢、信仰、国籍等によって差別しない〉
〈ケア対象者の信念、信仰、価値観の尊重〉
〈臨床宗教師自身の信仰を押しつけない〉
〈ケア対象者に関する情報の守秘義務〉
〈アドボカシー（ケア対象者のエンパワーメント）〉
〈情報の適切な扱い〉
〈臨床宗教師としての適切な振舞〉
〈所属組織の規律遵守〉
〈同僚との良好な関係の維持〉
〈他の組織との良好な関係の維持〉
〈宗教間の良好な関係の促進〉
〈自立的かつ持続可能な体制の構築〉
〈自己向上義務〉
（『臨床宗教師倫理綱領』、実践宗教学寄附講座運営委員会）

すなわち、この「臨床宗教師倫理綱領」は、宗教・教派・宗派の立場をこえて人々の宗教的ニーズに応える臨床宗教師の育成のために「心の相談室」の有識者によって作成された。それは、実習を含めた公共空間での臨床宗教師の活動を適切なものにするように策定されたものである。したがって、宗教者の倫理遵守の重要性を学び、龍谷大学大学院実践真宗学研究科においても、宗教者が公共空間で社会実践を行う際には、この「臨床宗教師倫理綱領」を共有して、教員や大学院生がそれを遵守していくことを、実践宗教学寄附講座運営委員会で確認しあった。さらに、臨床経験を積むために、2013年10月から東北大学大学院の「臨床宗教師研修」に参加して学ぶこともできた。こうした大学院間の交流が花開き、2014年度から、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座の協力を得て、龍谷大学大学院実践真宗学研究科において「臨床宗教師研修」を始められることが確定した。

4.「臨床宗教師」の認証と社会的意義

「臨床宗教師」とは、欧米のチャプレンと同様に、伝統のある宗教教団に認定された宗教者（僧侶、神父、牧師等）が、医療、社会福祉、被災地などの公共空間において、施設スタッフとチームワークを組み、場合によっては異なる宗教的背景をもつ宗教者と協同して、人々の悲しみに寄り添う人をさす。

東北大学大学院実践宗教学寄附講座では、「臨床宗教師」の認証を一大学で独占せず、「臨床宗教師」を全国で養成してほしいという志願があった。その東北大学大学院の志願に龍谷大学大学院実践真宗学研究科の教員は心動かされた。そこで、東日本大震災以降、社会で受け入れられた「臨床宗教師」の認証を尊重し、龍谷大学大学院においても「臨床宗教師」を養成していくこととなった。将来的には、全国の仏教系大学や上智大学グリーフケア研究所など宗教的な伝統文化と心のケアを大切にしている諸大学や諸研究機関と連携していきたい。

龍谷大学大学院実践真宗学研究科では、公共性を保つために、その教学基盤を真宗学におきながら、宗教者間協力を重んじ、臨床経験とその理論を積み重ねてきた宗教学者、医師・看護師、心のケア（スピリチュアルケア）指導者などの参加をえて、社会実践分野の研修プログラムを実施することが必要であると考えている。現代世界の人々の苦悩を聞き、孤立する人々に寄り添う宗教者を、龍谷大学大学院実践真宗学研究科からも社会に輩出していきたい。

ふりかえってみると、2011年３月11日に発生した東日本大震災直後、３月17日に浄土真宗本願寺派東北教区災害ボランティアセンターが浄土真宗本願寺派仙台別院内に開設された。その東北教区災害ボランティアセンターには、浄土真宗本願寺派僧侶・門信徒のみならず、仏教各宗派のボランティア、キリスト教やイスラム教の聖職者や市民ボランティアが世界中から集まった。また東北大学、京都大学、龍谷大学、武蔵野大学など全国の大学や高等学校の教員と学生のボランティアも仙台別院に継続的に訪れ、そのボランティア総数は、2013年８月末の段階で、延べ２万２千人を超えた。宗派宗教を超えて、宗教者も一般市民も、東北教区災害ボランティアセンターを活動拠点として宿泊し、飲食を共にして語らい、自分たちにできる復興支援活動を創意工夫しながら行ってきた。言うに言えない苦しみや悲しみをかかえた人々の住む被災地に行って、人々と共にいる時、ぬくもりがうまれた。支えたいと思うボランティアも被災地の人々の優しさに支えられた。

上智大学グリーフケア研究所所長の島薗進教授は、龍谷大学大学院実践真宗学研究科主催のシンポジウム「現代社会の苦悩に寄り添う―宗教者に求められているもの」において、こう提言した。

「宗教的ケアは、宗教的な形があるから真心がこもっている。災害支援ボランティア活動など悲しみに寄り添うスピリチュアルケアは、宗教的な形がないところに宗教的なものがある。」（龍谷大学響都ホール 2013年11月21日）

以上のように、「臨床宗教師研修」は、病院、社会福祉施設、被災地など公共空間において、宗教者が、医師、看護師、介護士、園長、保育士、町職員などの専門職員に学び、時には異なる信仰を持つ宗教者と協同しながら、人々の苦悩と悲嘆に寄り添い、「スピリチュアルケア」と「宗教的ケア」を実践する道を開いていくためのものである。その理論と実習による研修自体が、宗教者としての自己の課題を知ることにつながるだろう。

5．スピリチュアルケアとは

医療や社会福祉において、治癒の見込みの少なくなった人は、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛を抱えているとされる。「スピリチュアル（spiritual）」に関して、世界保健機関（WHO）では、「身体的、心理的、社会的因子を包含した人間の『生』の全体像を構成する一因とみることができ、生きている意味や目的についての関心や懸念とかかわっていることが多い。特に人生の終末に近づいた人にとっては、自らを許すこと、他の人々との和解、価値の確認等と関連していることが多い」（『がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア』1993年）と示している。スピリチュアルな苦痛とは、自己を喪失していく時に、「なぜ私がこんな目にあわなければならないのか」「私の人生は何だったのだろう」という生きる意味への問いとなってあらわれる。未解決な問題に心悩ませ、死後の不安から神や仏への救いを求める気持ちでもある。スピリチュアルケア、心のケアとは、未解決な問題を解決し、自己の支えとなるものとのつながりを再確認することを通して、生きる力を育む援助である。ケアの原点に、「何かをすることではなく、そばにいることである（not doing but being）」という言葉がある。絶望的な状況におかれている人に、何もできなくてもそばにいて、手を握ったり、話をするのを聞いたりするだけで支えになることをこの言葉は教えている。また、悲しみに沈んでいる人が、苦境の中で示す優しさや深き願いに看取る人々は多くのことを学ぶ。このように心のケアとは、全人的な苦しみにあえぐ人のそばにいて、うれしかったことや辛かったことに耳を傾け、様々な面を持つその人の人生をまるごと認めることであるといえるだろう。

6．親鸞思想に基づく社会実践

幾世紀にもわたって何億人もの人たちが、さまざまな地域の宗教から計り知れない恩恵をこうむってきた。宗教における愛や慈しみが、孤独の中にある人々の苦悩や悲嘆に至り届いて生

きる希望を与えてきた。そこで、龍谷大学大学院実践真宗学研究科の教学基盤である親鸞思想をふりかえり、宗教者の社会実践の姿勢について考慮しておきたい。唐代の善導が著わした『往生礼讃』に、「自信教人信、難中転更難、大悲伝普化、真成報仏恩」（大正蔵47巻442a）と記されている。親鸞は、その文を『教行証文類』「信巻」と「化巻」の二か所に引用して、「大悲伝普化」という善導の言葉を「大悲弘普化」と書き直している。

「みづから信じ、人を教へて信ぜしむること、難きがなかにうたたまた難し。大悲弘くあまねく化する。まことに仏恩を報ずるになる。」（「信巻」、『註釈版聖典』261頁。「化巻」真門釈、『註釈版聖典』283頁）

すなわち、「大悲を伝へてあまねく化する」という原意を、親鸞は「大悲ひろくあまねく化する」と読み取った。したがって、私が大悲を伝えてすべての人々を教化するというのではない。如来の大悲がひろくすべての人々を教化すると親鸞は受けとったのである。この「大悲弘普化」は、親鸞の伝道姿勢を示す一つの重要なキーワードである。自己の行為が大悲なのではない。如来の大悲に支えられて、大悲の中で、自分のできることを精一杯することが、仏恩に報謝する実践になるといえるだろう。

浄土真宗本願寺派第24代大谷光真門主の次の言葉は、宗教者が臨床現場において実践する際に原動力を与えてくれる。

「阿弥陀如来の慈悲に救われていると知ったものが、自分の不完全さから目をそらさず、自らができることをする。私の行為が慈悲なのではなくて、阿弥陀仏の慈悲のなかで、今何ができるかということです。聖道の慈悲を「自力」浄土の慈悲を「他力」といってもいいのですが、他力だから何もしないで惰眠を貪っていていいわけではありません。不完全な存在であるという自覚のもとにできることからやるのです。」（大谷光真著『愚の力』文春新書 2009年）

災害や事故で突然に愛する人を失くした時など、どれほど相手を想っても思い通りに助けることができないことがある。しかし、その無力な自己を如来の大悲の光は照らし育んでいる。至らない愚かな自己がそのまま大悲にいだかれている。亡き人から受けた愛情や優しさが死別した後も自分自身の心に生きている。こうした大悲のぬくもりと自己を支えるものとのつながりが自己を突き動かし、限界を知りつつもなお相手を想う姿勢が生み出されてくる。如来の大悲に照らし護られた愚者の実践がある。そのことを先の言葉が教えてくれる。大悲にぬくめら

れた自己が何か大切なことに感動し、その感動が相手に伝わっていく。しかも大悲の中でわが身をふりかえり、仏願の生起本末を聞いて、自己の往くべき道をくりかえし再確認することが、宗教者自身にとって必要となるだろう。

7.「臨床宗教師研修」における具体的目標

龍谷大学大学院の「臨床宗教師研修」は、東北大学大学院の「臨床宗教師研修」と目標を同じくし、次の五点の習得をめざす。

①「傾聴」と「スピリチュアルケア」の能力向上

自分の宗教宗派の教義や世界観を前提として対象者に接するのではなく、まず相手の声を真摯に聴き、悲嘆を受け止め、自然に顕れてくる宗教性を尊重することの重要性を学び、それぞれを現場での実践やグループワークを通じて体得することを目指す。

②「宗教間対話」「宗教協力」の能力向上

他宗教、他宗派の宗教者と目的を一にして共に学び合う機会を通して、自分の信仰をあらためて相対化することを試み、他者の信仰を尊重する姿勢を学び、自らの気づきを共有する。

③ 自らの死生観と人生観を養う。

「病者を看取ることは自己を看取ることである」(『雑一阿含経』) と釈尊は説いた。ちょうどそのように、相手に寄り添うには、自分自身の依りどころとする人生観、死生観を培うことが求められる。

④ 宗教者以外の諸機関との連携方法を学ぶ

公的機関と宗教者が連携し、宗教者が公共的存在として活動するためには、お互いにさまざまな配慮が必要である。宗教者としてのアプローチがどのような影響を与えるか、自分自身の言動を見つめつつ、慎重かつ積極的な働きかけの方法を学ぶ。

⑤ 幅広い「宗教的ケア」の提供方法を学ぶ

他の宗教宗派の儀礼や世界観を学び、他の宗教、他宗派の宗教者との同一性と差異性についての理解を深める。その上で、宗教的儀礼に参加し、さまざまな宗教者ともに礼拝することや、ケア対象者の求めに応じて適切な宗教者や伝統宗教の組織を紹介する方法について学ぶ。

「臨床宗教師研修」では、これらの目標をめざして、研修生を対象にロールプレイ、グループワークなどの実習と講義を行い、研修生は、自己の役割と課題を見つめ直す。また、研修生は、東北大学大学院実践宗教学寄附講座運営委員会の「臨床宗教師倫理綱領」を守る。

以上の「臨床宗教師研修」の目的と意義を理解し、「臨床宗教師研修」に関する所定の実習

と講義を受講し、修得した者に「臨床宗教師」修了証書を授与する。

8．アドバイザリーボードによる提言

学内外の有識者によるアドバイザーリーボード（顧問委員会）を組成し、「臨床宗教師研修」を推進させる。特に、研修において、受講生が実習先でトラブルやハラスメントなど倫理的な問題に巻き込まれた際に、アドバイザリーボードの顧問委員に相談し、中立的な立場で、受講生を指導、保護し、実習先との調整をはかることができる体制を構築する。特に、「臨床宗教師研修」のカリキュラムや実習内容に関する提言をいただき、本研修を充実して継続させる。

アドバイザリーボード：

島薗進（上智大学グリーフケア研究所所長、東京大学大学院人文系研究科名誉教授）、鈴木岩弓（東北大学大学院文学研究科教授）、谷山洋三（東北大学大学院文学研究科准教授）、高橋原（東北大学大学院文学研究科准教授）、池永昌之（淀川キリスト教病院ホスピス長）、新堀いづみ（あそかビハーラ病院看護部長）。打本弘祐（社会福祉法人慶徳会常清の里ビハーラ僧、日本スピリチュアルケア学会認定指導資格者）、龍溪章雄（龍谷大学大学院実践真宗学研究科教授、研究科長）、深川宣暢（同教授）、鍋島直樹（同教授）、杉岡孝紀（同教授）、田畑正久（同教授）、早島理（同教授）、吾勝常行（同文学部教授）、黒川雅代子（同短期大学部准教授）。

履修要項

1．応募要項

4月初めの実践真宗学研究科の履修説明会で「臨床宗教師研修」応募要項について説明する。二年次生以上の実習希望者は事前学習レポートを指定の〆切までに文学部教務課に提出する。4月下旬に、実習の受講可能者を教務課から発表する。

〈事前学習〉

(1) 参加動機：これまで／これからの自分自身の「臨床宗教師」としての活動をふまえて、今回の研修に参加する動機や、研修で特に学びたいことについて一千字程度のレポートを4月11日までに提出。

(2) 生育歴：出生から現在に至るまで、自分の人生に影響を与えた出来事について、その時の思いを含めて五千字程度で記述する。さらに、記述して気づいたことや感想を八百字程度にまとめ、八百字程度のレポートだけを4月20日までに提出する。（五千字程度のレポートは研修が終わるまで自分で保管する。）

(3) 人生観：自分自身の人生観、死生観、信仰について、影響を受けた人物や書物、出来事な

どを含めて二千字程度で記述する。さらに、記述して気づいたことや感想を八百字程度にまとめ、八百字のレポートだけを４月20日までに提出する。（二千字程度のレポートは研修が終わるまで自分で保管する。）

(4) 課題学習：研修中に行う講義の予習として、事前に指示する資料に基づいて学習する。詳細は講義担当者の指示に従う。

〈募集人数〉５名から10名。

〈応募要件〉信徒の相談に応じる立場にある者。あわせて、次に該当する者。

① 龍谷大学大学院実践真宗学研究科に在籍する者（二年生以上）

② 龍谷大学大学院実践真宗学研究科を修了した者（特別専攻生・修了生）

③ 大学卒業者で大学院生と同等の資質があると実践真宗学研究科が認める者（2015年度より社会人を対象とした応募要件の枠を拡大する）

④ 実践真宗学研究科の教育理念・目的を理解し賛同する者

⑤ 臨床宗教師倫理綱領を遵守する者

２．履修カリキュラム

(1) 必修科目

以下の５科目10単位を修得すること。

①「臨床宗教師研修」に特化した講義

〈新設科目〉

- 「臨床宗教師実習」通年集中2単位2年次配当
- 「グリーフケア論研究」半期2単位2年次配当

〈既設科目〉

- 「ビハーラ活動論研究」半期２単位２年次配当

※講義の一環として、有識者を招いて特別講義を開催する。

②「臨床宗教師研修」の基盤となる講義

〈既設科目〉 ※いずれも実践真宗学研究科の必修科目

- 「実践真宗学研究」半期２単位１回生配当
- 「真宗人間論研究」半期２単位１回生配当

(2) 選択必修科目（推奨科目）

以下の10科目を推奨科目とし、２科目４単位以上を修得すること。

①「臨床宗教師研修」に関連した講義

〈既設科目〉

「真宗教義学研究」半期２単位１回生配当

「現代宗教論研究」半期２単位１回生配当

「宗教心理学研究」（宗教者間対話）半期２単位１回生配当

「宗教教育学研究」半期２単位１回生配当

「生命倫理論研究」半期２単位１回生配当

「人権・平和論研究」半期２単位１回生配当（隔年開講）

「カウンセリング論研究」半期２単位２回生配当

「地域活動論研究」半期２単位２回生配当（隔年開講）

「臨床心理学研究」半期２単位１回生配当（隔年開講）

「精神保健学研究」半期２単位１回生配当（隔年開講）

３.「臨床宗教師実習」の概要（2014年度　実績）

(1)「臨床宗教師研修」に関するシンポジウムならびに特別講義に参加し、学内外の有識者の経験と知見に学ぶ。

(2) 三回の全体会と特別実習を行う。被災地、病院、社会福祉施設、ビハーラ関連施設を訪問し、研修スタッフ、施設スタッフの指導にしたがって研修を積む。

〈全体会１〉 2014年５月20日（火）～22日（木）

東日本大震災の被災地での臨床実習：石巻、東北大学大学院との合同研修

〈全体会２〉 2014年６月25日（水）～26日（木）（予定）

あそかビハーラ病院・ビハーラ本願寺での臨床実習：京都

〈全体会３〉 2014年７月15日（火）～17日（木）

保育園・デイサービスセンター統合社会福祉施設での臨床実習：宮崎

(3) 特別実習プログラムに参加し、臨床実習を行う。

〈特別実習１〉 東日本大震災の被災地での臨床実習仙台・南三陸・気仙沼

〈特別実習２〉 広島平和祈念資料館訪問と被爆者講話による臨床実習：広島

〈特別実習３〉 社会福祉施設、常清の里などでの臨床実習：大阪など

〈主たる研修スタッフ・大学院協力者・施設協力者〉

研修スタッフ：鍋島直樹（龍谷大学文学部教授、臨床宗教師研修主任、日本スピリチュアルケア学会理事、浄土真宗本願寺派ビハーラ活動企画推進委員）、杉岡孝紀（龍谷大学文学部教授、臨床宗教師研修副主任）、堀靖史（本研究科実習助手）、打本弘祐（社会福祉法人慶徳会

「常清の里」ビハーラ僧)、森田敬史（長岡西病院ビハーラ僧)、金沢豊（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）ほか。

大学院協力者：鈴木岩弓（東北大学大学院文学研究科教授、宗教民俗学)、谷山洋三（東北大学大学院文学研究科准教授、臨床死生学、仏教福祉学、日本スピリチュアルケア学会評議員)、高橋原（東北大学大学院文学研究科准教授、宗教心理学、実践宗教学）

施設協力者：大嶋健三郎（あそかビハーラ病院院長、緩和ケア医師)、新堀いづみ（同看護部長)、花岡尚樹（同ビハーラ僧)、山本成樹（同ビハーラ僧)、弘中信厚（橘保育園園長・橘デイサービスセンター長）ほか。

〈研修参加費〉

別途定めて、文学部教務課より研修生に連絡する。

4．修了証の授与

「臨床宗教師研修」の修了者には、龍谷大学大学院実践真宗学研究科より、「臨床宗教師研修修了証」を授与する。

5．フォローアップ研修

本研究科では、滋賀医科大学医学部生との合同研修、また特別講義やシンポジウムが開催される予定である。また、東北大学大学院の主催する「臨床宗教師」フォローアップ研修に参加できる。宗派宗教を問わず、浄土真宗本願寺派ビハーラ活動養成研修会に参加して研鑽を深めることもできる。

6．「臨床宗教師修了証」授与者の修了後について

この「臨床宗教師研修」は、参加者自身が現代世界の悲しみの現実を知り、自分自身を見つめ直すための研修である。応募要件を「信徒の相談に応じる立場にある者」（僧侶、坊守、牧師、牧師夫人等も含まれる）と定めているように、修了後の就職先確定や資格取得のために行われるものではない。「臨床宗教師研修」修了によって、自らの宗教者としての課題を見つけ、自らの現場に戻って生き生きと活動できるようになることが本研修の願いである。実際に、本研修修了者が、その修了証書を活用し、医療や社会福祉施設において、自らの新しい活動現場を広げることや、ボランティア先を見つけることに役立っている。東北大学大学院で研修を修了した臨床宗教師、チャプレンやビハーラ僧と交流を深めてほしい。